



♡・♡・♡ 届け！子育て情報 ♡・♡・♡

『つくば子育てカレンダー』の発行が実現しました

サークル、団体などの集まりや子育て支援センター、さらにはイベントの予定など、毎月の「子育て情報」を掲載した『つくば子育てカレンダー』が発行されるようになりました。発行元は、つくば市地域子育て支援センター「けやき広場」です。制作は、もちろん、私たち「かるがも・ねっと」です。

「けやき広場」が発行しますので、市のこども課の子育て支援の取り組みになっています。「かるがも」で制作し、こども課と力を合わせて印刷・配布をする協同事業です。筑波大の研究室も、制作に協力しています。

子育て中のお父さん、お母さんのもとへの情報の定期便です。1月号からお届けしています。まずは、2,800部からスタートしました。

『けやき』『かつらぎ』の支援センターや「かるがも」関連のサークル・団体を通じて配布するだけでなく、こども課を通じて児童館、保健センター、社会福祉協議会、障害者センター、公民館などにも置いていただいています。小児科の医院にも「かるがも」のメンバーが届けています。「配布用の箱を用意しました」「好評です」など、うれしいお言葉もいただいています。

正しい情報を定期的に伝えていく必要があります。カレンダーに載せたい情報がありましたら、ぜひお寄せください。

* 情報は・・・毎月15日が次月号の締切りです。下記の連絡先までお願いします。

【情報の送り先】 FAX : 853-4829(筑波大学教育社会学研究室)

メール : karugamo_net@yahoo.co.jp

【情報の内容】

集まりやイベントなどの名称 / 開催の月日・時間 / 開催場所 / 問い合わせ電話番号
電話番号の掲載を希望しない場合には、その旨、お書き添えください。

お知り合い、ご関係の方への配布にもご協力ください。その際には、必要部数と連絡先を、上記のFAXまたはメールまでお知らせください。

「子育て支援の場における安全・安心」について

第12回・第13回「かるがも・ねっと」学習会より

2006年9月の「子育て支援を考える2006」において、「遊びからはじめる支援」について話し合ったグループのなかから、「遊びと安全」が課題として挙げられました。子育て支援の場が多様化しているなかで、野外の安全、室内の安全、出入りの自由さ、何組もの親子への対応と、配慮すべきことは多岐に渡ってきています。しかし、安全確保は個々の現場の試行錯誤に委ねられているのが実情です。こうした現状を踏まえ、第12回・第13回の学習会では、連続して「子育て支援の場における安心・安全」をテーマとして取り上げ、日ごろの支援の場での安心への配慮や支援者が感じている課題について話し合いました。



そこで今回のニュース・レターでは、これら2回の学習会の流れと、いくつかの論点について、ご紹介していきます。

1. 「安心・安全」への取り組みと、支援の場で感じる課題 - 第12回学習会より -

第12回(2006年12月16日)の学習会では、「子育て支援における安心・安全」をテーマに話し合いがなされました。当日は20名弱の方が参加し、日頃の活動のなかでの「安全」への配慮について、さまざまな意見が出されました。

まず、安全のために心がけていることや活動の工夫について、大きく分けて次の四つの取り組みが出されました。一つめは、事故が起きた際の対応の仕方や、その日起きた「ヒヤリ・ハット(危ない!と思った瞬間)」などについて、支援者間で「情報の共有」を図ることです。支援の場の安全を守るには、こうした支援者同士の連携は特に重視されているようです。活動の工夫の二つめは、親と子の安全・安心の枠を広げる「見守りとアドバイス」を行うことです。また、三つめは、ベビーゲートや柵を設けたり、はさみ等の危険物を厳重に管理したりするといった「施設・設備に関する工夫」が挙げられました。そして四つめは、子どもの見守り役や支援の理解者となる「他団体・地域との関係づくり」が出されました。

このように、子育て支援の場では、安全に関するさまざまな工夫・取り組みがなされていますが、どれだけ注意を重ねても「危険はゼロにならない」のが現実です。こうした危険に対する認識を踏まえ、支援の場の安全を守るための課題が話し合われました。

話し合いでは、「親によって安全に対する考え方が違うが、どのように対応していったらいいのか」といった個別対応の問題や、「集団や異年齢児の保育の際には、どこまでやれば安全といえるのか」といった、安全の度合いの問題が出されました。また、支援者の安心のもととなる保険への加入や危機管理のマニュアルについても、詳しく知りたいとの声が上がりました。

2. 支援の場で起こるトラブルとその対応 - 第13回学習会より -

こうした第12回での話し合いを受け、第13回(2007年1月25日)の学習会では、15名ほどの方が参加し、支援の場を訪れる親子の「安心・安全」を守るための対応について、話し合いました。当日は、「親の衛生面に対する不安・心配」「支援の場を訪れる親子の『安心・安全』に関わるトラブル」といったテーマについて、支援の場で実際に起こった事例をもとに、それぞれの場面における対応について考え、情報共有を行いました。ここでは、各テーマで出された事例や対応の工夫、支援者に求められること等について、ご紹介していきます。

(1) 親の衛生面に対する不安・心配

まず、「親の衛生面に対する不安・心配」に関わる事例として、参加者の一人から、過敏なほどに「清潔」にこだわるお母さんのお話が出されました。支援の場にあるおもちゃが清潔かどうか、砂場が消毒してあるかといったことに不安を感じる方もいるようです。こうした衛生面に対する不安や心配を抱える親に対して、各支援者は、次のような対応をとっているようです。

支援者の個人的な意見ではなく、衛生に関する専門家など、ある程度の権威をもった人の話を交えながら、「衛生」に対して神経質になりすぎないように、話をすること

先輩ママの経験談（子育てのなかで衛生面に対する不安が弱まっていったプロセスなど）を聞けるよう、お母さん同士の橋渡し役をすること

野外での衛生を気にする親に対しては、どろんこになりながらも、元気に過ごしている子どもの様子を、実際に見てもらうこと

不安・心配の言葉を母親からのSOSの発信とみなして、衛生面の話をきっかけとしながら話題を広げ、母親の悩みを聞くこと

また、これらの対応をとるためにも、支援者が日頃から配慮する点として、「支援の場における衛生管理について、団体・グループの中で共通理解を作ること」「支援者が衛生管理に関して学び、正しい知識をもつこと」といったことが挙げられました。

(2) 支援の場を訪れる親子の「安心・安全」に関わるトラブル

つづいて、支援の場を訪れる親子の間で起こる「安心・安全」に関わるトラブルについて、「親の認識の違い」「ケンカの見守り」を事例に話し合いました。

親の認識の違い

支援の場を訪れる一人ひとりの親は、それぞれに異なる「安全」に対する認識を持っています。そのため、母親の認識の違いが、支援の場におけるトラブルの大きさを左右することもあるようです。実際、支援者にとって、「遊びのなかでケガが生じてしまったときに、どこまで気にして対応すればいいのか」という判断は、非常に難しいものとなっています。こうしたトラブルへの対応策として、各支援の場では、次のような対応をとっているようです。

「子どもにケガは付き物だ」ということを共通認識にすること

大きなケガでなければ、傷は治るもの。小さなケガを大げさに扱わないよう、「こういうこともあるよ」という声かけをすること

また、トラブルを起こす子が固定している場合には、そうした子どもをもつ親が支援の場に来にくくならないよう、周りの親達に対して、「なぜその子がトラブルを起こしてしまうのかを説明すること」や、「トラブルを起こす子どもをもつお母さんの気持ちを伝えること」が、支援者の役割として必要であることが提案されました。

ケンカの見守り

支援の場におけるトラブルのもうひとつの事例として、「子ども同士のケンカをどこで止めたらいいのか」といった、ケンカの見守りをめぐる判断の難しさが出されました。支援者がいる場合には、比較的、親達もケンカを見守ることができるようですが、子育て当事者しかいないサークル等では、ケンカが起きたらすぐに止めてしまう傾向があるようです。こうしたケンカの止め方については、次のような提案がなされました。

ケンカをしたり、トラブルを経験したりするなかで、子どもは育っていくものである。子どもの発達や成長について、親達が学ぶ場を設けること

例えば、「高いところでケンカをしている」「物を使っている」「子ども同士の年齢が離れている」など、「このような場合はケンカを止める」という一定の基準を団体・サークルのなかで作成し、支援者や参加者の間で共有していくこと

日常的な参加者のみならず、臨時で参加するボランティア等に対しても、子どものけんかやトラブルに対する対応の仕方をあらかじめ伝えておくこと

これまでみてきたように、「安全・安心」を守るためには、衛生管理やトラブルの対応などについて、支援者や参加者の間での共通認識を作り、それを共有することが重要になっているようです。また、そうした共通認識を作るためには、サークル・団体のなかで、衛生や安全に関する学習会を開き、全員で学ぶ機会を作ることにも有効であるといえそうです。



* * * * *
お知らせ
* * * * *

① 第14回学習会を開催します。ぜひご参加下さい。

次回の学習会では、「安心・安全」をテーマとし、地震や不審者対策等、子育て支援の場において対策が求められる事柄について考えたいと思います。どうぞご参加下さい。

テーマ：子育て支援における安全・安心 (Vol.3)

「こんなとき、あなたならどうしますか？～安全対策について考える～」

日時：2007年2月28日(水) 13:30～16:00

場所：桜庁舎2階 第2会議室 ※保育あり(要予約・保育料500円)

問い合わせ：TEL：857-9037(つくば市地域子育て支援センターけやき広場)

E-mail：karugamo_net@yahoo.co.jp

② 子育て支援についての図書購入について

筑波大学社会貢献プロジェクトの助成で以下の図書を購入しました。

貸出をいたします。学習にご利用ください。

- ・ 原田正文著『子育て支援とNPO 親を運転席に！支援職は助手席に！』朱鷺書房
- ・ 汐見稔幸編著『世界に学ぼう！子育て支援 デンマーク・スウェーデン・フランス・ニュージーランド・カナダ・アメリカに見る子育て環境』フレーベル館
- ・ 津止正敏・藤本明美・斎藤真緒・足立陽子編『子育てサークル共同のチカラ 京都の子育てネットワークー当事者性と地域福祉の視点からー』文理閣
- ・ 郷地二三子著『少子化地域における子育て支援』新読書社
- ・ 原田正文著『子育ての変貌と次世代育成支援—兵庫レポートにみる子育て現場と子ども虐待予防』名古屋大学出版会

③ 「かるがも」1歳の“誕生日”を前に

もうすぐ「かるがも」の誕生日がやってきます。3月4日で1歳になります。皆様に1年間の活動や会計を報告する時がやってきます。次年度に向けて活動計画を立てたり、役員・世話人など、役割を決めたりする時でもあります。この1年の活動についてご感想、ご意見など、お聞かせください。会員以外の方からのご感想、ご意見もお待ちしています。

来年度に向けて、世話人としてお手伝いして下さる方を募っています。一緒に「かるがも」を育てていきましょう。よろしく願いいたします。

なお、総会については、改めてご連絡申し上げます。

ご意見・ご感想・ご連絡は、かるがも・ねっと連絡先まで。

発行：つくば市子育て支援ネットワーク **かるがも・ねっと**

「かるがも・ねっと」は、つくば市にある子育て支援に関わる

機関・団体・サークル・ボランティアのネットワークです。

発行日：2007年2月14日 編集：飯田浩之・岩村一代・遠藤宏美・丹治恭子

連絡先：【E-mail】karugamo_net@yahoo.co.jp

【FAX】 029-853-4829(筑波大学教育社会学研究室)